

第2分科会

高大連携によるキャリア教育

－大学、高校双方にとって持続可能で有意義な連携のあり方とは？－

[報告者] 宮越 敬記（京都市立塔南・開建高等学校 教頭）

[報告者] 東山 加奈子（龍谷大学 高大連携推進室 課長）

[コーディネーター] 上杉 まり（京都市教育委員会 指導部学校指導課 指導主事）

[コーディネーター] 竹田 昌弘（京都市教育委員会 指導部学校指導課 参与）

龍谷大学と開建高校は高大連携に関する協定を結び、龍谷大学による開建高校の生徒に対する探究型プログラムの企画・運営や探究型授業における学習支援等を進めている。それらの取組の状況を共有し、大学と高校双方にとって持続可能で有意義な連携のあり方について議論する。

概 略

形式的な連携にとどまらず、意義のある高大連携推進のためには、高校・大学双方が直接対話し、お互いのニーズや期待を理解し協力することで、生徒の学びを支える役割を果たすことが不可欠である。

龍谷大学と開建高校は高大連携に関する協定を結び、龍谷大学による開建高校の生徒に対する探究型プログラムの企画・運営や探究型授業における学習支援等を進めている。分科会では、龍谷大学と開建高校の連携の取組について、大学、高校双方の立場からの報告を行った後、大学と高校双方にとって持続可能で有意義な連携のあり方についてグループ協議を行った。協議題は以下の通りである。

- ①現在実施している高大連携の取組とその課題の共有
- ②大学、高校双方にとって持続可能で有意義な連携のあり方

全体討論の内容

主に以下の内容について全体討論が行われた。

① 高大連携のあり方

高校と大学の連携を深めるには、お互いを「お客様」と見ない関係が重要であり、高校と大学が互いのニーズを理解し、ともに協力し、生徒の学びを支える役割を果たさなければならない。

生徒が学びの楽しさを実感し、自分の学びがどのように将来に繋がるのかを生徒が理解できるような高大連携のあり方を考えていくことが必要であるという意見が出た。

② 持続可能な連携の方法

持続可能な高大連携には負担も伴い、なかなか前進しないという参加者からの意見に対して、登壇者からは、双方の思いやビジョンを共有するための「継続的な対話」が必要であることが繰り返し強調された。また、連携の際には、形式的な連携ではなく、実際の生徒たちの学びにどう繋がるか、

そしてその学びのプロセスを高校・大学それぞれがどうサポートしていくかに焦点を当てるべきだという意見もあった。

③ 選抜と教育の連携

大学入試選抜においては、選抜がただの競争で終わるのではなく、大学がどのような生徒を求めているか、またその生徒たちがどのような学びを大学で深めていくのかを明確にし、教育のプロセスとして連携していくことが求められるのではないかという意見や、例えば探究活動や発表会などを生かして選抜方法を工夫することも意見としてあった。

到達点と今後の課題

持続可能で有意義な高大連携のためには、継続的に対話を重ねながら、形式的な連携ではなく生徒の学びを主眼に置いた、高大一体となったキャリア教育推進の姿勢が必要である。今後継続的に対話をを行い共同プログラムを実施していく中で、さらに連携を深めていきたい。また、京都のように多くの大学があるところでは、コンソーシアムなどの大きな枠組みが、各高校・各大学のニーズを集約し、ニーズに合う形でマッチングしていくようなプラットフォームとなり高大連携を進めることで、より効果的な連携につながる可能性も考えられる。地域の大学間で連携し、様々な選択肢を提供することで、高校生にとってより多様な進路の選択肢が増え、大学側の生徒募集にも良い影響を与えることが期待される。



第2分科会統合版資料

スライド 1

第2分科会

高大連携によるキャリア教育

一大学、高校双方にとって持続可能で
有意義な連携のあり方とは？—

スライド 2

分科会の流れ

15:30～16:40

- ・開建高校・龍谷大学の紹介
- ・開建・龍谷の連携による
キャリア教育について
- ・質疑応答

16:40～17:30

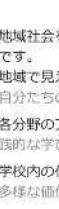
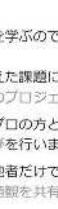
- ・グループ協議
- ・まとめ

スライド 3

京都市立開建高等学校（令和5年4月開校）

設置学科：ルミノベーション科(その他普通教育を施す学科)
募集定員：240名
教育目標：より良い未来をめざし、個性を活かして社会を協創する生徒の育成



地域社会を学ぶのではなく、“地域社会で学ぶ学科”です。
地域で見えた課題に対して、1つではない答えを自分たちのプロジェクトとして探究します。
各分野のプロの方との対話・協働による体験的・実践的な学びを行います。
学校内の他者だけでなく、地域の方々とも対話し、多様な価値観を共有します。

※文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業」の研究指定校（R4～R6年度）
※文部科学省「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」の指定校（R6年度）

スライド 4

カリキュラムの特徴

- ①授業が変わる～学びを楽しむ～
②魅力あふれる京都をフィールドに実践する
探究活動～学びと社会をつなぐ～

- ③生徒が夢になれる課外活動～より深く、より広く～

- L-podを活用した多様な学び
・チームによる指導
・生徒が学び方を選択
・生徒が主体的に知りたい、学びたいと思えるかけづくり

- 京都をフィールドにした探究活動
・京都の大人が挑戦するより良い未来づくりに高校生としてできることに挑戦
・協働して新たな価値を創造する挑戦
・ホンモノに触れることで社会との関わり方やはたらくことへの気づき



主体的に取り組む課外活動

- ・生徒たちが考える部活動の在り方
- ・自分たちで企画や運営を行うやってみたい形にするプロジェクト

スライド 5

開建高校 総合的な探究の時間 特徴について

・積み重ねる探究と他者と協働する探究を並走し、複数の立場で多様な地域社会での共生のあり方を考える
・初歩からユートピアを終えたら、生徒の責任ある計画の立案・実行に任せ、審査の探究のサイクルを経験
・成果ではなくプロセスを重視し、生徒が自由に発想し、確かな自信をもって行動に移す姿勢を奨励

フェーズ	1年前期	1年後期	2年	3年前期
フェーズⅠ 自分たちでやる 地域で活動して、自分たちでやる 自分たちでやる、自分たちでやる 自分たちでやる、自分たちでやる	フェーズⅡ 社会の現状に向き合う 自分たちでやる、自分たちでやる 自分たちでやる、自分たちでやる 自分たちでやる、自分たちでやる	フェーズⅢ 主張を構築し、議論化を促進 自分たちでやる、自分たちでやる 自分たちでやる、自分たちでやる 自分たちでやる、自分たちでやる	フェーズⅣ 主張を構築し、議論化を促進 自分たちでやる、自分たちでやる 自分たちでやる、自分たちでやる 自分たちでやる、自分たちでやる	フェーズⅤ 主張を構築し、議論化を促進 自分たちでやる、自分たちでやる 自分たちでやる、自分たちでやる 自分たちでやる、自分たちでやる
「まずは、やってみる」「言をえて、街へ出よう」「やつてみたいを やってみる」「The Sky Is (NOT) The Limit」	「社会現象 企業等から「考える枠組み」をもらい、 ありたい未来を想像 探究する」	「やれいかわらないでしゃう！」 自由な発想から「ありたい未来」を想像し、自分や他の人の想いや充実と繋げつけ、インバーションへ向かう 授業、学校外の人との協働を複数回経験する	「自ら活動のあり方を考え、 他者の創造を重ねていく 個人／グループ 研究／実践 同年代／異年齢 発表／実践など…」	
初期基礎 コアスキルの理解	コアスキルの活用			

スライド 6

総合的な探究の時間 1年生前期

各教科・科目の独立した世界のルールや内容を理解するだけではもったいないので教科・科目の学びから、この世界の見方・考え方を学べるはず！！



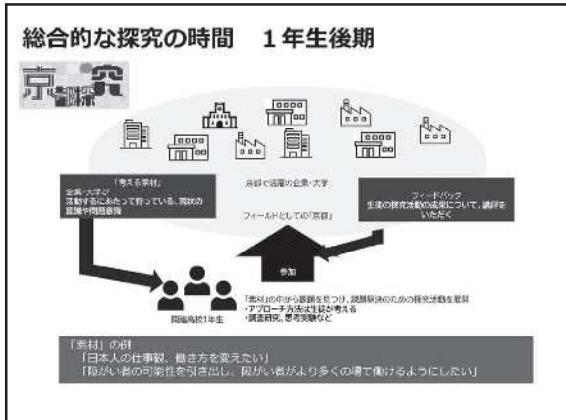
Perspective



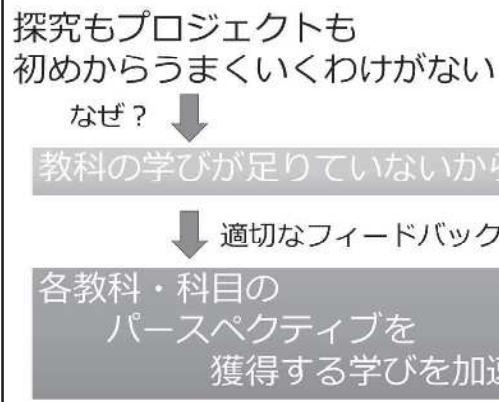
各教科・科目のパースペクティブで「コンビニ」を見てみる

「特定のパースペクティブだけでは捉えきれない広範かつ複雑な文脈や事象を多様な角度から俯瞰して捉える」ことを各教科・科目の学びで発揮することで、各教科・科目のパースペクティブがより強固なものとし、深い学びにつなげる

スライド 7



スライド 8



スライド 9

新学科設置に際しての工夫

龍谷高校
Ryukoku High School

- 生徒全員が同じ学科であること
- 独自選抜では、グループワーク型の面接を導入
- 探究を生かした大学進学を大学と模索
- 地域協働コーディネーター、高校コンソーシアム京都などの活用
- 同じ思いで活動する他の学校との交流
- 興味関心に応じた科目選択を可能としたカリキュラム
- 集団生活でのルールも自分たちで考えてほしいので、生徒心得のみを提示 ※生徒心得は学校HPに掲載
→ 抑圧されない環境で、生徒が主体的に考え、楽しく活動するなどのびのびと学校生活を送っている

生徒が主体的に学ぶ学校づくりに対して、学校がやろうとしても、なかなかできないことに真正面から挑戦

16

スライド 10

龍谷大学の紹介

創立年 1639年 今年で385年を迎えた 共創HUBコンソーシアム京都 様々な取り組み

2030年の創立400周年を迎える将来ビジョン(あるべき姿)
「まごころ～Magokoro～」ある市民を育み、新たな知と情操の創造を図ることで、あらゆる「壁」が通いを乗り越え、世界の平和に寄与するプラットフォームとなる。

2030年の将来ビジョンの実現に向けて
中長期計画「龍谷大学基本構想400」を策定中

・京都駅の東側に2027年度開設予定の座右館が進捗するノベーション複合施設
・スタートアップ支援に特化した京都市信金会庫の支店や多様な学生・社会人等の交流を促す龍谷大学のサテライトキャンパス、交流館の学生寮や賃貸マンション等様々な機能を備える施設

龍谷大学カーボンニュートラル宣言(2022年)
龍谷大学SDGs宣言(2022年)
龍谷大学ネイチャーポジティブ宣言(2024年)

・自省的行動指針に基づき仏教SDGsを推進する龍谷大学が先導する大学初の宣言

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 17

スライド 11

龍谷大学の紹介

21,751名

キャンパス数 在籍学生数 深草キャンパス(京都市) 12,550名
大宮キャンパス(京都市) 2,303名
諫早キャンパス(大津市) 6,898名

施設整備

学部・学科・課程・専攻

心理学科
文学部
経営学部
政策学科
国際学部
社会学科
経営学部
社会学科
先端理工学部
農学科
深草キャンパス
大宮キャンパス
諫早キャンパス

新たな教學展開 研究学部「両学部」2023年4月新設
社会学部「両学部」2023年4月新設
More Changes
More Possibilities

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 18

スライド 12

龍谷大学 高大連携推進室の紹介

2005年度に高校との教育連携を推進する専門部署として「高大連携推進室」を設置

事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 付属校1校 宗門関係校24校 (うち教育連携校4校) 高大連携協定校31校 計56校が中心
推進体制	<ul style="list-style-type: none"> 室長(准員)1名 事務部長1名 課長1名 専任職員1名 義務般定職員1名 アシスタントスタッフ1名 高大連携フェロー2名 計8名
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> 大学説明 (主に半次の概要説明や「大学の学びとは」) 授業講義 大学見学会 (大学説明、キャンパスツアー、学舎体験等) 探究活動支援 (発表会の講評、研究の進め方講話等) 教育連携プログラム (研究室体験、キャリア形成プログラム等) 入学前学習課題(付属校、教育連携校)

<高大連携推進室の基本方針>
龍谷大学は、高校教員から大学教員への円滑な高大接続をめざし、教育をはじめとする諸活動への相互理解を深めつつ、生徒や学生の成長を第一視点とした連携事業を積極的に推進する。
◎教育連携の考え方
1. 高校生の確か学力を育成し、学習意欲の喚起とよりよい進路選択(学校選択)を可能にするための高大連携事業を実施します。
2. 高校生と大学生、両学生が交換する機会を提供し、双方のキャリア形成につながる活動を展開します。
3. 地域全体の高校生や高校生の活性化を目的とした地域貢献事業を実施します。

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 19

スライド 13

高大連携の取組

連携協定の内容

- ①大学による高校の生徒が参加できる探究型プログラムの企画・運営
- ②大学による高校の生徒への授業（総合的な探究の時間・探究型科目）における学習支援
- ③大学による高校の生徒への部活動における指導助言
- ④大学による高校の生徒が参加できる地域交流イベントの企画・運営
- ⑤その他双方の交流・発展に関して必要と認める事項

スライド 15

1年生の感想（抜粋）

- ・あまり知らない分野だったけれどどのような感じなのかイメージを掴むことができました。
- ・〇〇学部のことなんて何も知らなかっただけ話をきいて興味を持てました。
- ・思ってた〇〇学部じゃなかった（いい意味で）。
- ・私は文系なので理系は関係ないと勝手に思っていたけど今回理系についての話を伺って理系の中にもさらに種類があつて興味があるものたくさんあることを知りました。
- ・この勉強がやりたいとは思わなかったけど、聞いていて少し楽しかった。
- ・自分にはあってないと思った

自分の持っているイメージだけで判断している生徒
が非常に多い

「知らないものからは選べない」ため、まずは足を踏み入れることが必要

話を聞くだけでなく、その領域の学びをすることによって、より理解が深まり、適切な判断ができるようになってほしい

スライド 17

高大連携接続プログラム

令和6年度実施計画 ※開建高校キャリアワークの一環として実施
1月24日・25日 濑田キャンパス・深草キャンパス
各学部提供の1.5日の探究学習プログラム

昨年度例

- 「日本の行事食・おせち料理（調理実習）」（農学部）
- 「風洞実験による翼型の性能評価」（先端理工学部）
- 「自然言語処理における英単語のベクトル表現」
(先端理工学部)
- 「大学で学ぶとはどういうことだろうか？」（社会学部）

スライド 14

高大連携接続プログラム

令和6年度実施計画 ※開建高校キャリアワークの一環として実施
7月24日 濑田キャンパス
○大学での学びについて（高大連携推進室）
○農学部・食品栄養学科での学び（農学部）
○先端理工学部の特徴について（先端理工学部）
7月25日 深草キャンパス
○文系学部による探究型学習 ※2学部を選択受講
テーマ例
「文系学部での学びーことばと文字のもつ力とはー」「もし、あなたが逮捕されたら」（法学部）

スライド 16

1年生の感想（抜粋）

- ・これもまためっちゃ難しかったけど（開建の）先生と討論している様子がすごくこのくらい極められたら良いと感じられた。
- ・まさに自分の想像するTHE理系の学部だった。物理なんて計算を山ほどするだけのディストピアだろと思っていたが、その計算がどのような目的に使われるのかが明確なだけでもうれしく思います。教科なんだと思った。
- ・院生が話してくださったときは、そのものが好きで愛しているという熱意が伝わってきて引き込まれました。ここまで自分の好きなことにめりこんで、研究して、話せるようになりたいと思いました。いつかこんな大学生になりたいです。
- ・実際に学生さんのプロジェクトの話を聞いてその意欲的な姿勢がすごく尊敬できました。

好きなことを追求する姿は開建の目指す姿

それを全力でやっている人の話は生徒たちに魅力的

違い姿の大学の先生ではなく、近い姿の学生の姿を見ることがキャリア教育として重要

スライド 18

開建高校DXハイスクール事業

令和6年度「高等学校DX加速化推進事業」（DXハイスクール）の研究指定を受け、令和7年度入学生の1年生前期の教材を龍谷大学の協力のもと、現在開発中

参考> 開建高校が目指すDX人材
デジタル技術やに関する知識やスキルを有し、社会を変える発想力と論理的思考を底支えするデータ活用スキルや思考スキル、プロジェクトをマネジメントするスキルを発揮して、新たな価値を創造し、社会で活躍・貢献できる人物

スライド 19

課外活動での連携

開建高校で以前から取り組んできた、
「防災ボランティアリーダー」龍谷大学の先生が指導
研究室の学生さんと共に、能登でフィールドワークを実施



RYUKOKU UNIVERSITY
開建高校
Kaikan High School

スライド 21

その他 (検討中の事項)

○高校・大学が「探究」を軸に協働できることを検討
○高校・大学の7年間を通した学びのプログラムの検討
○高大連携事業を踏まえた、大学入学者選抜の方式

今後に向けて

大学
○大学教員のより効果的な支援の方法
○大学内の合意形成をいかに進めていくか
○新規連携事業における負担感をどう減らすか
高校
○連携事業を進めるまでの経費の捻出をどうするか
○大学任せにならない、教職員個人の意識づくりを
どう進めていくか

RYUKOKU UNIVERSITY
開建高校
Kaikan High School

スライド 20

龍谷大学主催行事への協力

夏のオープンキャンパス
8/3 sat 8/4 sun 8/24 sat 8/25 sun
10:30~16:00 [www.ryukoku.ac.jp/opencampus.html#TOP](#)

テーマ「学びの探求」

RYUKOKU UNIVERSITY
Open Campus
高大連携 特別授業
龍谷大学 反転授業

高大連携特別授業では、動画による事前学習・課題をもとに、
当日の授業を実施。テーマ・学習内容等において、高校の代表として関わり、事業に協力。